

みんなの居場所

裏面の話題

みんなの居場所の裏面を、小学生にとって必要ではないかと思う問題、漢字、語、慣用句等々を載せていきます。ご家族の団らんの話題にしてみてください。会話が広がります。

令和8年2月16日(月)

「 自信は経験から生まれる 経験は失敗から始まる 」 お世話になった校長先生の言葉

失敗を恐れていては、自信は生まれませんなあ...

卒業前離感 集団の動き

子ども達は、これから多くの仲間と出会い、切磋琢磨して人格を磨き、立派な大人になるよう努力していきます。その中で、悩み苦しみなながらも壁を乗り越えていく力を身につけていくのも、青春時代ならではの経験といつて良いかも知れません。その営みの中で、私達大人は子ども達の健やかな成長を願って支援していくのですが、私は対個人のサポートと共に、集団を「ネットワーク」することも支援の一つだと捉えています。「学級経営」という言葉は聞いたことがあると思いますが、企業の経営というようなことではありません。私達教師が学級を「ネットワーク」していくことなのですが、私はこの学級経営にグループダイナミクス(集団の力学)の考え方を重ねて考えるようにしています。グループダイナミクス、ある本にはこうあります。

「人間は、集団になったとき、個人がはたはたに行動するのではなく、集団ゆえに生まれる動力に従って行動する。これは、個人が集団から影響を受けるというところであり、逆に集団に影響を与えようというところでもある。」「集団精神療法や精神保健福祉援助などで用いられる用語で、グループの力動を記述されます。複数の援助の対象者で、一つのグループを作って、そこに「メンター」や支援者が関わるのが、集団精神療法や、集団援助活動です。その目的は、支援者や支援を受ける人が、一対一で面接する場合と異なる。グループ活動独特の、メンバー同士の相互作用が起ります。それをグループダイナミクスと呼びます。」

更に具体的なグループダイナミクスの一例を説明するならば、私たちも経験があるものでは、学生時代に先生から勧められてもやらないようなこと、または、親から勧められてもやらないようなことでも、友達から勧められたらやる、というような心理だと思えます。グループの仲間同士で起る、励まし、助言、など様々な相互作用や動きをグループダイナミクスと言います。グループダイナミクスの視点で学級を見ても、色々なことが見えてきます。影響力のある子、みんなを和ませてくれる子、リーダーシップを発揮してくれる子、いい考えをもっている子も意見を出さない子、周りに流されてしまう子...。色々な子が互いに影響し合っていて集団を形成し、その集団が微妙に干渉し合っているのです。この干渉が良い方向へ働くと、学級集団は支持的共感的協力的な集団になっていきます。悪い方向へ働くと、排他的な雰囲気や強い、集団への所属に対する喜びが低くなっていきます。女子がグループを作っていて互いのグループが干渉し合い、くっついてたり離れたりするものがその例です。そうならないように、担任は意図的に集団に働きかけたりするのです。私達は毎年違う子ども達や集団と出会い、マニュアル無いの真剣勝負には緊張感がありますが、遣り甲斐が大きいです。中学校に進学するにあたって「赤信号、みんなを渡れば怖くない」といって、悪い方向へ、安易な方向へと流れてないように、中学6年間を過すつもりでいたいものです。

シリーズ「自分を語る」#76

前の年に私が担任させて頂いた学級は3年生1学級39人でした。その子ども達は17kmの遠歩会を経験して、新たな目標に向けて昨年の夏休み明けから10周のランニングを継続していたのです。4年生になったその時の子ども達は、新しい担任の先生と共に活動を継続していました。新しい担任の先生は本町小学校で一緒に仕事をさせて頂いた先生で、その時は既に「ナイトハイク」一緒にやるよ...と密約が成立しており、私は5年生に対して「4年生に負けるのか?」なんて発破をかけることができまして、4年生は4年生で、担任の先生が「毎朝ちゃんと走っていない?、ナイトハイク参加させてもらえんよ。俺が頼み込んでやるけん、澤田先生には」といふ具合に、うまいこと学年の連携がとれ、当時の伊倉小学校を引っ張っていく位の意気込みがあったように感じました。

かくして、4・5年生共同のナイトハイク開催に向けて準備していきます。この時行っていた朝のランニング10周は、少なくとも私が伊倉小学校にいた間、複数年が取り組んでいたように思います。

いよいよ夏を迎えました。4年生からの強い希望により、5年生と同じ距離を一緒に歩くことになりました。出発はJR上熊本駅です。そこから田崎市場を抜け、いわゆる河内線を通り伊倉小学校まで歩くのです。4年生の頑張りに奮起した5年生は、朝のランニングを10周以上設定し、走る子で30周という頑張りがありました。

さて、出発。快調に歩を進める伊倉小学校4・5年生です。子ども達の様子もやる気なから、この時の保護者の皆様の気合の入れようは凄いのでした。事前のトレーニング、ランニング用のウェア、トレーニング、実施前に整骨院に通った人もいました。何かしらの達成感を味わいたかったのだらうと今になって思えます。よくよく考えてみると、大人になって一人で33kmの距離をナイトハイクなんて普通はやりません。子ども達が頑張りから、同世代が頑張りから、サポートしてくれる人から、応援してくれる人があるから頑張り得るのです。そのことが何となく伝わっていたような気がします。この年も多くの教え子達が手伝いに来てくれました。玉名町小学校時代にはまだ高校生だった教え子達が、大学生、社会人となって手伝いに来てくれているのです。そしてこの子たちのお陰で、私のことについて、後に「フラスになる」ような話を保護者の皆さんにしてくれていたように感じました。

これは、後々本当に私にとって有難い事へと繋がっていきます。ナイトハイクは通常、後半走ついてもペースが落ちるので、前半まである程度の距離を稼がないといけません。その時も、20kmほどを私が先頭で引っ張りました。そこから、10kmの始まりです。班行動が始まるまで遠端に「甘え」「痛み」「眠気」が出てきます。途中の「フラス」は班の意図を尋ねて良いように使っているのですが、その回数が極端に増えます。(笑)(笑)(笑)